

教育目標

やさしい子
挨拶の習慣
かしこい子
家庭学習の習慣
たくましい子
手洗い・正しい姿勢の習慣

学校だより

令和5年11月29日(水)
島原市立第一小学校 No7

気持ちのよいあいさつ

～ あいさつあふれる学校・地域をめざして ～

「『良き習慣』を身に付けることは、子どもたちの幸せにつながる。」という考え方から、本校では特に「気持ちのよいあいさつの習慣」について、これまででも学校だけでなく、家庭・地域と協力して身に付くよう努めています。家庭では、各学級部会のテーマとして取り組んでいただいておりましすし、地域においては、見守り活動時に地域の方々が声かけをしてくださっています。

学校では、すでに取組が終わっていますが、10月の代表委員会（児童代表が集まって行われる会議）の議題として、この「あいさつ」が取り上げられ、次の取組が行われました。

全校で取り組むこと

あいさつbingoを行い達成した人（あいさつMVP）を放送する。

子どもたちが自ら「あいさつ」の課題は何か（自分からしない。元気がないなど）を考え、解決方法を話し合ったことで、これまで以上に、自分から進んで、大きな声で、ワンストップをして、「校長先生」と言ってあいさつをする子どもが多くなりました。とてもうれしく思っています。

「あいさつは大きな声で自分から」(しまばら 家庭教育 三・三・七拍子)

島原市社会教育の会が中心となった取組 三・三・七拍子の一番目です。(No.1にも記載)

森岳地区は、次のように、あいさつに取り組むのによい環境です。

1 歴史的建造物等が多く、観光客に会う機会が多い。

2 小・中・高（2校）が隣接しており、児童・生徒・学生が会う機会が多い。

このように、人と出会う機会が多いことは、あいさつを交わす機会が多いということになります。

このような良い環境の中で、子どもたちが気持ちのよいあいさつをすることができれば、多くの人から称賛され、ますますあいさつへの取組に積極性と意欲が高まります。

150周年を迎える、多くの人たちから注目される子どもたちです。子どもたちの磨かれた心の鏡を形として、まず気持ちのよいあいさつで示したいと思っています。

創立150周年記念式典

～ 子どもたちの心に刻まれるものとなるように ～

令和5年12月12日(火) 島原市立第一小学校が創立150周年を迎える創立記念日です。

この創立150周年を迎えるにあたり、令和3年度の準備委員会を経て令和4年度から記念事業実行委員会が立ち上がり、これまでに多くの時間と多くの人々のお力添えのもと、この事業が進められてきました。そして、いよいよ、令和5年12月17日(日)記念式典が挙行されます。

学校として大切にしているのは、この150周年事業を好機ととらえ、一連の事業一つ一つを『子どもたちの心に刻まれ、いつまでも素晴らしい思い出として残る。』ものにすることです。

そのため、式典の第2部において全学年が、学年別に直接または、映像で発表を紹介します。

すべての子どもたちが、式典行事に関わるということで、この目的が達成することをめざし現在各学年ともに、その完成に向けて準備しているところです。

「心に刻まれた、その素晴らしい思い出」は、月日が過ぎたとしてもまた、たとえ島原を離れたとしても子どもたちの心の中に生き続けていくことでしょう。

150周年に関わる事業を通して一小を愛し、島原を愛し、地域（森岳）を愛する心を育んで行きたいと思っています。